

## 都市型中高層集合住宅における社会単位空間の構成手法の研究

成熟を迎えた日本社会で、家族<sup>\*1</sup>の形は変わりつつある。経済的に豊かになり、「非家族世帯」が増え、核家族以外を対象とした住環境の模索が行われている現状がある。閉鎖的で無機質な建築形態となってしまっている都市型中高層集合住宅の中では、住人は互いの関係性が匿名的なまま生活している。さらに、近代に完成し、形式化されたユニットが地面から離れて作られるとき、外部の関係はバルコニーやテラスといった形式化された小さな外部空間を付加するだけであった。そこで複雑化する世帯の形態を単純な社会単位と定義し直し、その数と場所を対応させることで、集住体内にある場を捉えなおす。それによって住人が選択的に



I-1-1. 社会単位スケール<sup>\*4</sup> の定義

社会単位スケールとは集合住宅の中にある場所の対応住戸数である。その大きさに合わせてそれぞれの場所を定義した。

(XL) エクストラージュスケル 対象住戸数 300 戸以上

タワー型マンションの公開空地など。住人以外の人も対象としていてその利用方法はほとんど想定できない。都市に還元される広場のような場所。

(L) ラージスケル 対象住戸数 21~ 300 戸

戦後から作られ始めた公園の分棟配置の、前庭などがそれに当たる。住棟間のアプローチはグランドレベルのみで、上部は互いに見えるだけである。採光をとったり、住人の集まる場所であったり生活インフラなどを集約する場所として必要不可欠である。

(M) ミドスケル 対象住戸数 2~ 20 戸

場所の近隣住人が生活空間の一部として利用し、不特定多数の視線を気にすることなく、限定された人の集まる場所として生活空間の一部として利用される場所。また室内の集会場や共同キッチンなど、機能としての場所も挙げられる。動線部分を除いた部分とする。コレクティブスペース<sup>\*5</sup>。

(S) スモールスケル 対象住戸数 1 戸

バルコニーやテラスなどが上げられる、1 戸に 1 つ、または 2 つある。住戸の唯一の外部空間で、物干しの場所や、換気、採光、ガーデニングなどを住人が選択的に利用できる場所である。

(XS) エクストラスモールスケル 対象住戸数 0.1~ 0.9 戸

住戸内、室内にある外部であり、他ユニットに接続することも想定できる。この場合 0.5 戸でもあり、2 戸ともなり、隣人と視線があったり、選択的に出会うことができるようになる。

### 3-1-2. 社会単位スケールアクセス図 図 3-1-2)

3-1-1 で抽出された社会単位スケールから集合住宅の中の接続方法を比較するため、下記の定義のもと、空間の関係を図式化し、特徴を読み取る。

・ フィジカルアクセス：集合住宅内の動線を示した線である。住人が、住戸からその集合住宅内の代表的なルートをたどり、アプローチできる場所までを実線で示す。

・ メンタルアクセス：集合住宅内の視線の通りを示した線である。住人がその集合住宅内のそれぞれの場所から見ることができる別の場所までの視線を点線で示す。

・ Inside・outside：集合住宅の中にある場所が内部なのか外部なのかを丸と四角で示す。

ここでは、内部空間と外部空間の関係も等しく評価するため、集合住宅内にある場所の社会構成単位スケールについて内外問わず表記し、フィジカルアクセスとメンタルアクセスでつなぐ。(図 3-1-3) その後外部空間について考察する。

### 3. 調査・分析

#### 3-1. 調査

集合住宅内の社会構成単位スケールとその他の場の関係及び形態を探るために、社会構成単位スケール・用途の図面による調査し、集合住宅内の動線と視線<sup>\*6</sup>の関係性を図式化するスケールアクセス図による調査から集合住宅内の動線・視線計画を図式化し、スケールの関係や大きさとその形態の特徴を明確にする。サンプルは国内外問わず、『Dbook』や『新建築』などから、1995 年以降の近作の中で中高層の集合住宅 48 作品をピックアップした。その中で、ミドルスケールを持つ 26 作品に絞り込んだ。さらに、

関係を築けるよう、場へのアクセス性、そこから見える風景を集合住宅の価値観と捉え直すことで、集合住宅の新しい形態を導く。そこに多様な場を設定し、集住体内に住む家族の生活に新しい価値を見出す。本研究では、都市型中高層集合住宅内の社会構成単位<sup>\*2</sup>空間の接続関係を探り、住戸間の干渉する外部空間の空間構成手法を見つけ出すことを目的とする。その手法を基に地面から離れた集合住宅の中で住むにあたって、手に入れるこことできる住まい方の中で、家族の単位が小さい住人が共に住む場を設計する。

世帯構成	世帯構成員	ビルディングタイプ
単独世帯	寡男(婦)	
非家族世帯	独身者 or 結婚不明者 兄弟姉妹の共住 その他の親族の共住 明確な幹を持たないもの同士の共住	寄宿舎 孤児院 ミングル 老人ホーム
単純家族世帯	夫婦 夫婦と子供 寡母と子供 寡婦と子供	
拡大家族世帯	上向的(父母) 下向的(母、姉) 水平的(兄弟、姉妹) コンビネーション	老人ホーム 多世代住居
多核家族世帯	上向的副次核を含む 下向的副次核を含む 水平的副次核を含む その他	
分類		
平面型(部)		
張り出し型		
接外面名稱	特徴	
窓	部屋の採光・通風などのために壁や部屋の一部に窓で穴	
バルコニー	会場の室外に張り出した手すりつきの所	
ベランダ	建物から張り出した縁、普遍、ひさしのあるものをいう	
テラス	建物の外側に張り出した、平らな所。	
段状バルコニー	建物の外形を段階に構成し、それに面した内部空間に外部の地面面を与えることができる	
貢入テラス	建物の外形に穴を作るようにしてできる外部空間で、建物の通行方向に採光と通風を保ることができます	
オーブンエアテラス	建物、もしくは壁内に開まれた外部空間で、断面的に貢入された場所。	



その比較対象として近代の代表的な集合住宅をピックアップした。

\*6 専有空間を除いた空間の中で、動線以外の滞留空間とする。

#### 3-1-1. 社会単位スケール・用途の抽出

それぞれの社会構成単位の関係を把握するため、集合住宅内の住戸以外の部分についてそれぞれの場所を用途別に塗り分ける。(図 3-1-1-a) さらに、それぞれの場所のスケールごとに塗り分け、その位置関係を図示する。(図 3-1-1-b)

### 3-1-2. 社会単位スケールアクセス図 図 3-1-2)

3-1-4 で抽出された社会単位スケールから集合住宅の中の接続方法を比較するため、下記の定義のもと、空間の関係を図式化し、特徴を読み取る。  
・**フィジカルアクセス**：集合住宅内の動線を示した線である。住人が、住戸からその集合住宅内の代表的なルートをたどり、アプローチできる場所までを実線で示す。

- ・メンタルアクセス：集合住宅内の視線の通りを示した線である。住人がその集合住宅内のそれぞれの場所から見ることができる別の場所までの視線を点線で示す。

・Inside, outside : 集合住宅の中にある場所が内部なのか外部なのかを対と四角で示す。

ここでは、内部空間と外部空間の関係も等しく評価するため、集合住宅内にある場所の社会構成単位スケールについて内外問わず表記し、フィジカルアクセスとメンタルアクセスでつなぐ。(図 3-1-3) その後外部空間について考察する。

### 3-2. 分析

### 3-2-1. 社会単位スケール・用途の抽出

スマールスケールより小さいスケールはパブリックなアクセス空間から離れて配置され、孤立した空間となっている。

### 3-2-2. 社会単位スケールアクセス図

#### A. フィジカルアクセス

A-1. ストレートタイプ：階段室型、単純な片廊下型、中廊下型などがその代表的な例である。ミドルスケールの場が少ない。特にミドルスケールの外部空間にフィジカルアクセスできる場の種類が乏しい。寄り道のない単純明快な図となっている。表3-2の2-1では、ストレートなアクセスの間に様々な種類のミドルスケールを挿入している。室から多くの人が集まる場となる。単純かつ機能的な動線計画に分類できる。

A-2. 枝分かれタイプ：ある室から集合住宅を出るまでに選択的に集合住宅内の違うスケールにフィジカルアクセスできるもの。近代の作品であると、階段室タイプが通常例であったため枝分かれタイプの例がなかった。東雲キヤナルコート CODA Nにおいて、中廊下型の集合住宅を明るくするために作られたエアポケットのように、集合住宅外にアプローチする際に選択できる場があるタイプ。

A-3. 二股タイプ：“室からの二股と都市からの二股で大きく意味が異なる。前者であると、集合住宅の中に違うスケールの場があり、そこはその住戸とは関係性が薄いものとなる。後者であると、選択的に行ける場所として位置づけられ、寄り道のように都市部へ出る空間以外の道を選ぶとまた違った風景が広がる”という特徴を持つ。

A-4. 循環タイプ： 一つの場に少なくとも二種類の場所からのアクセスが必要である。2-・では、テラスを貫入させ動線とアクセス可能にした。住戸と動線の二方向からアクセスでき、動線からも建物の向こう側にメンタルアクセスが可能になる。他人の空間なので住人が招き入れれば、フィジカルアクセスも可能である。ミドルスケールであれば、そこはその周辺の人にとっての中心的な場所となる。ミドルスケールに2つのアクセスのある例が2-・でしか見られなかった。

#### B. メンタルアクセス

B-1. 一方向タイプ：住戸から見えるどの外部も同じスケールが見える場合。特に直接エクストラージスケールがみえる直方体型、分棟型の外形容が多い。他人からの視線が気にならない。同じ方向を見ているので視線の交錯がなく、プライバシーが保てる。

B-2.二方向タイプ：建物の外部において違うスケールがみえる場合。建物の表と裏で性格の違うスケールに面する囲い型のタイプと、どちらも都市空間に直接接続する大方型とに分かれている。囲い型タイプでは、囲われた場所に面している中庭の外部と、都市とつながるラージスケールの外部の二種類の性格を持っている。

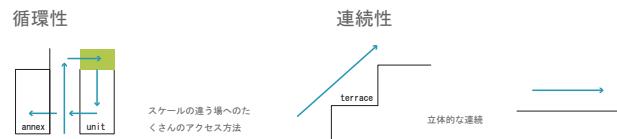
B-3. 交差タイプ：その場に立つと、同時に二つの場が見える場合。貫入テラスなど、建物が断面的に貫かれてできている場所である。

B-4. 連続タイプ：視線の集中する場にメンタルアクセスが集中する。特に中庭にその例が見られる。上記の二種類は2つの対象物を結ぶメンタルアクセスであるが、あるメンタルアクセスの中には個数が数個連続する状態である。バルコニーの先に中庭があり、その先の貫入テラスから都市の様子が伺えるような場合である。ある場が見え、その先にも場があるといつ

た、空間の重なりがあるタイプとに分類できる。

結論

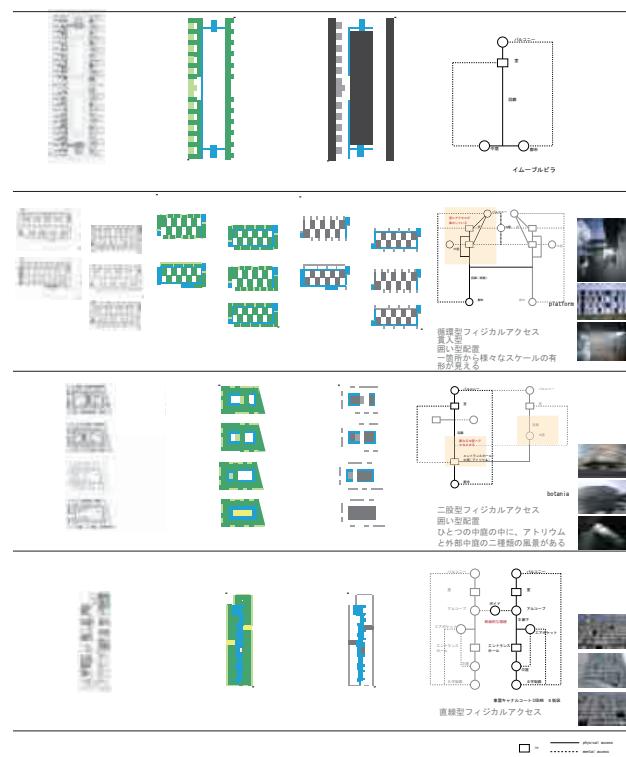
### 5-a 研究結果による、空間構成手法



以上のように集住体においてアクセスの多様性は、内部をミドルスケールに区切り、フィジカルアクセスでは循環性、メンタルアクセスでは連続性のある空間操作が起因した多様性である。また、住人の選択によって、社会単位スケールの変換がおこる二面性のある場も多様性を持つ場と

### 3-3. 考察

2-においては住戸とバルコニーの間に二重に循環するフィジカルアクセスができていた。メンタルアクセスでは二方向型で、連続タイプである。さらに貫入のプライベートテラスからは連続・交差タイプのメンタルアクセスができる。単純な分散中庭型の集合住宅の中で、住戸からもその近接外部空間からも、視線が合い、実際にそこにたどり着くことができる。住戸はアネックスタイプで、片方は建物内の外側に位置し、都市に面していて、片方は中庭にある。都市と接触している室にテラスがあり、そこからは中庭も都市の風景も見える。プライベートテラスは回廊型の動線に接触し、住人が招き入れればアクセス可能である。さらにその動線から、中庭にあるユニットにアクセスが可能である。小さな中庭からは、その中庭に面した住戸に視線が通る。小さな空間が連続し、住人でなくても選択的にアクセスできる場が、空間のアクセスを多様にしている。ここはプライベートな場所がパブリックになるという二面的な性格を持っている。2-では、二種類の中庭があり、それぞれ外部、内部の性格を持つ。それに挟まれたボリュームはそれぞれ違う性質のミドルスケールを持っている。これもまた二面的な性格を持っている。また、立体的なメンタルアクセスにおいて多様性を作っているのが2-、2-である。ミドルスケールを段状テラスによって建物の内部に作り上げた。さらには、その先に抜けを配し、集合住宅の外部へとメンタルアクセスできるといった構成となっている。建物の内部が多孔になり、密度との折り合いをつけることによって集合住宅内で希薄になりがちな立体的なアクセスを可能にしている。その場の対象としている社会単位スケールは小さく、2-では、その対象が6戸である。規模も小さく、3.7m×5.2mの大きさのテラスが断面的に連続している2-では、中庭が6m×9mと狭いことがわかる。連続性は小さな空間の中にできている。

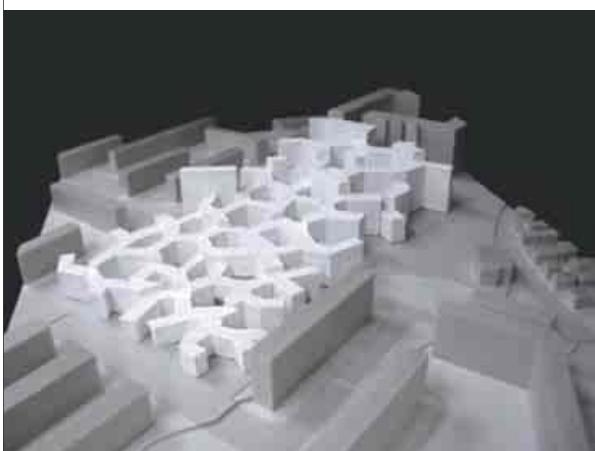


なる。集合住宅内から様々な場が見え、その先にも違う場所が見える、さらにその場所に行くこともできるといったスケールアクセス図を作ることがこの設計においての課題である。





内外空間



全体像



横ボイド



建物外形



内部空間